

日本英語教育学会第44回年次研究集会
2014年3月2日

日本人とアメリカ人の質問行為 ーグローバル人材を育成する英語教育のためにー

植野貴志子(東京都市大学)

uenok@fc.jwu.ac.jp

「グローバル人材」と「質問」

- グローバル人材とは、「自分の考えを持ったうえで、世界中の異なる考え方を受け入れて共感し、違いを明確にしたうえで、ディベートしてまとめられる人」である。（志賀俊之・日産自動車副会長@「グローバル人材育成フォーラム」2013年12月22日付朝日新聞朝刊）
- 人間関係を築くうえで大切なことは、「相手の話をどれだけ熱心に聞き、どういう質問をするか」である。（Sobel & Panas, 2012, *Power Questions*）

約 47,500,000 件 (0.33 秒)

[なぜ日本人は質問しないのか？ | SFII 勉強会](#)

ipconkfrull.blog135.fc2.com/blog-entry-98.html ▾

まあ、僕もそうなんですけど、なんで、日本人は講演の時とか講義の時に質問しないんでしょうかね。少人数の時は質問する ... な問題別についてた。たしかに、海外諸国と比べ、日本人の発言力の無さ、質問の無さは別格と言ってもおかしくないほどに目立っている。

[日本人はなぜ質問しないのか？質問力をアップさせてコミュニケーション...](#)

pasokon-kasegu.com/archives/1682 ▾

2013/10/09 - どうも、アマテラスです。今回は僕自身も苦手な「質問力」について書いてきます。質問力を鍛えることでコミュニケーション能力をアップさせられます。

[ご臨終メディア - 質問しないマスコミと一人で考えない日本人 \(集英社...](#)

www.amazon.co.jp ▾ 本 ▾ 新書 ▾ 集英社新書 ▾

そして、日本テレビの視聴率操作問題や、過剰なまでの自主規制。墜落した大手メディアの根底には何があるのか。本書は、「質問しない」「見せない」「懲罰機関化」という3つのキーワードを中心に、新聞・テレビの機能不全を網羅的に検証しながら、抗議を恐れる ...

[質問はカッコ悪くない！！](#)

なぜ日本人は質問をしないのか？

- 比較文化論(会田 1972他)
「察し」「遠慮」「和を重んじ、目立つのを嫌う」などの文化的志向性
- 教育論(上條 2000)
日:「受け入れるためだけに聞く聞き方」
一方的に聞く授業形態。質問をよいものとしてトレーニングしていない。
米:「質問をするつもりで聞く聞き方」
ただ聞いているだけでなく、質問・意見をぶつけることが要求される。

本発表のアウトライン

1. 質問とは？
2. 初対面の先生・学生間の日本語会話／アメリカ英語会話において、質問がどのように行なわれているか？



日本人：先生が学生を話しやすいように助け、導く

アメリカ人：先生と学生が対等に見解や情報を引き出す

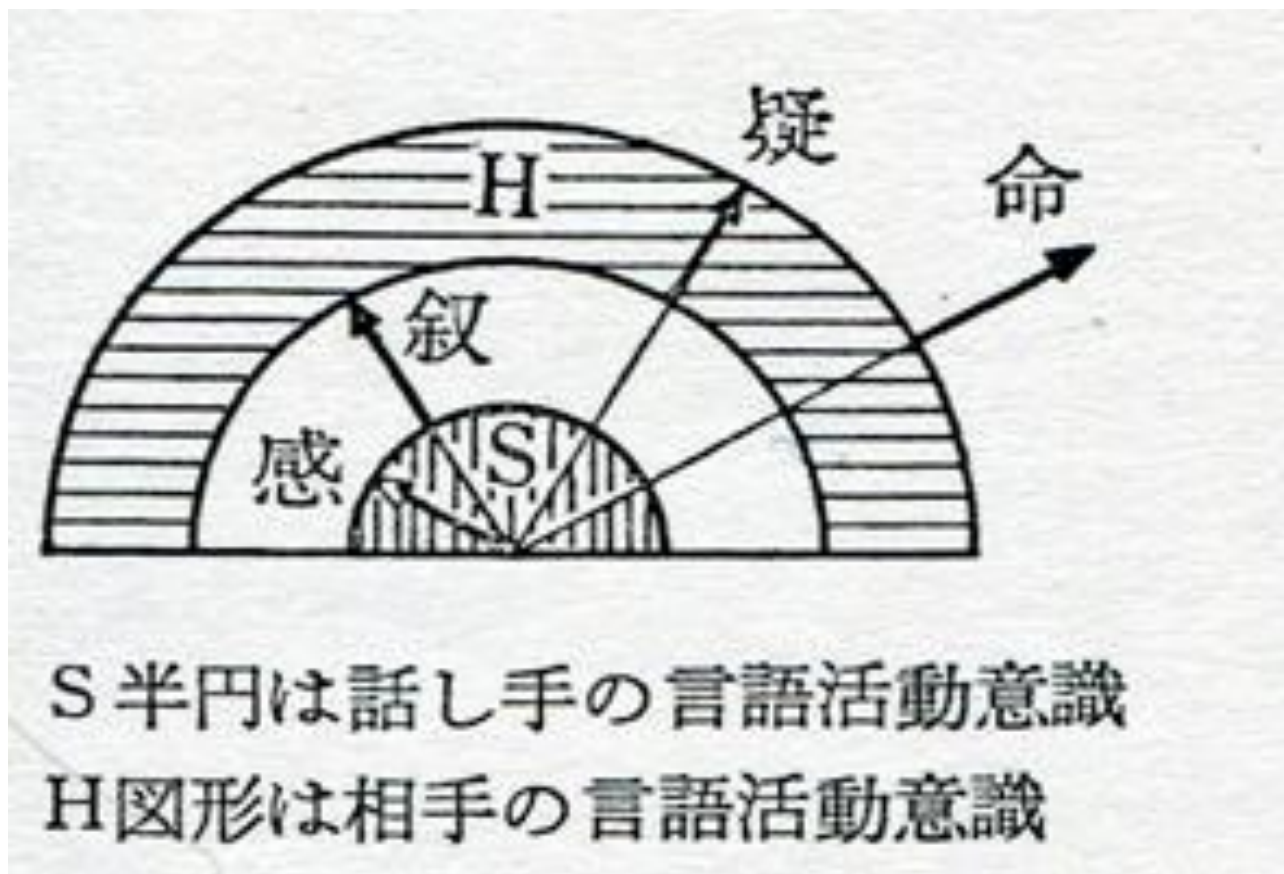
3. 日本人英語学習者は、グローバル人材としての英語コミュニケーション力を養うために、何を知っておくべきか、どのような訓練が必要か？

質問とは

- 話し手の内面の「不確かに思う気持ち」がある(南1985; 山口 1990; 宮地1979; Lyons 1977)。
- 不確かに思う気持ちが表出されたとき、自ずと聞き手に応答を求める「質問」となる。
- 質問には、ことばの上での応答を求めて相手に働きかける「言語的影響力」が備わる(宮地 1979)。

図1. 四表現の言語的影響力の強さ

(宮地1979:87)



感:感動 叙:叙述 疑:疑問 命:命令

質問の談話・対人機能

- 談話

相手を話に参加させる、相手に知識や考えを述べさせるなど、会話におけるやりとりの進展を主導

- 対人

パワー：上位者から下位者へ (Ehrlich & Freed 2010)

親密性：質問者と応答者の結びつき (Schiffrin 1993)

「熱中スタイル」(Tannen 1984)

質問と文化・社会

- 彭 (2001)

古代中国・・・尊敬すべき人に質問をしてはならないという「禁則」

- Goody (1978)

ガーナ・ゴンジャ・・・子供から大人への質問の欠如

英・米語圏中流階級・・・幼少期に親から子供に繰り返し行われる質問と応答の訓練

→質問の情報要求機能が命令的機能から分離
質問することへの抵抗感が除かれる

データ

「ミスター・オー・コーパス」

- 「びっくりしたこと」をテーマとする5分間の日本語・アメリカ英語会話、各10組
- 参加者：初対面の先生・学生のペア
 - 日本人： 大学教員（平均40.3才）
大学生（平均21.3才）
 - 米国人： 大学英語講師（平均39.7才）
大学生（平均21.3才）

本研究での「質問」

- 疑問文の形式を持ち、相手に対して何らかの問題を提示し、それについての応答を求めて働きかける発話
(南 1985; 宮地 1979他)
- 疑問文の形式
 - 日:(1)文末の音調を上げる
 - (2)文末に「か」「の」「かな」「かしら」等の助詞をもつ
 - (3)疑問詞を用いる(宮地1979)
 - 英:(1)文末の音調を上げる
 - (2)(助)動詞+主語の語順転倒の形式をもつ
 - (3)疑問詞を用いる
 - (4)付加疑問文の形式をもつ(Freed 1994)

質問の回数と主な使用目的

質問の回数

- 日本人 108発話
先生:75、学生:33
(先生>学生 約2.3倍)
- アメリカ人 71発話
先生:41、学生:30
(先生>学生 約1.4倍)

質問の主な使用目的

- 日本人、アメリカ人ともに、
- (1)相手に話題の提供を促す
 - (2)相手の話題の展開を促す

話題提供を促す：先生による話題の提案

01 T2: 学生さん[でいらっし

02 S2: [はい、今4年生で＝

03 T2: ＝あ＝

04 S2: ＝就職活動

しています＝

05 T2: ＝あ、じゃ、就職活動中なら

06 S2: はい

07 T2: びっくりすること色々あ[るんじゃないかしら

08 S2: [たくさんありますね

例

- 「そういう経験っていうのは、あのう、なんか、あ、あのう、やっぱりひとつ、おもしろい春だったなっていうようなね、時間でしたね、んー、あなたにとったら、何か、そういう世界、変ったよ、みたいな、ありますか」
- 「あるいは、そうですね、なんか読んだこと、映画で見たこと、なんでも何かありますか」
- 「たとえば普通日常的な中でね、なんだろう、なんかすごくその、宿題をやってくるのを忘れて、でも当てられてびっくりしたとかね、(中略)そういう日常的なことで、なんかないんですか」

話題展開を促す：先生による話の補完

- 01 S4: したら、また、ドーンて、きて、なんか、お釜に残ってる、ご飯全部いれてくれ、[くださって
02 T4: [あ、ん、優し
い{笑} =
- 03 S4: = 優[しいんです{笑}
- 04 T4: [優しいお店の人だ
- 05 S4: そうです{笑} =
- 06 T4: = うーん =
- 07 S4: = それで、入れてもらっ[て
- 08 T4: [う[ーん
- 09 S4: [それを、もってきてもらっ[て
- 10 T4: [うーん
- 11 S4: はい、普通 [に全部
- 12 T4: [それでぺろっと平ら[げちゃったの／
- 13 S4: [そうなんですよー、なん[か
- 14 T4: [恐ろしい、さすがラグビー部は違
[う
- 15 S4: [違うんですよねー、それで =
- 16 T4: = へえ

話題展開を促す質問：先生による話の拡張

17 S4: でも、なんか、ちょっと苦しんでたんで

18 S4: やっぱ、苦しいこともあるんだなと思いました{笑}

19 S4: そんな、なんだか、[びっくりっていうか、よくお腹に入るなーと

20 T4: [うーん

21 T4: そうよね、いくらラグビー部とはいえ

22 T4: **で、そのカレーは辛いの／**

23 S4: 辛いんですよ

24 S4: [辛いから、まあ、ルーが残るのは仕方が[ないんですけど

25 T4: [ああ

26 T4: [ああ、そうか、ご飯

のほうが比率が多[くなって

27 S4: [そうですね

学生の質問

- 話題提供を促す質問の使用／話題展開を大きく左右する質問の使用に消極的
- 学生の質問の多くは、応答における負担が小さく、話題展開にあまり影響を与えないもの

話題提供を促す：自由な話題選択

T8: Do you have something in mind?

S8: How about you?

(例)

“What’s your story?”, “So what do you find surprising?”, “How about yourself?”, “So what surprises you?” etc.

話題展開を促す：見解の要求

- 01 S9: So it's a xxx...like the... seems like the technology in Japan is like one step ahead of the U.S.... U.S. technology.
- 02 S9: And, seeing evidence of that here and there is always a... b...is a, always a surprise.
- 03 T9: **Do you find yourself kind of forgetting what it's like in the States, and this is, become more commonplace?**
- 04 T9: For example you were saying, you know, it's kind of commonplace in America for advanced technology like... you know... ahh... cameras on the telephone [to be... it was brand new, but you come here and all of a sudden it's like, 'Oh, that's, you know, that's nothing big'.
- 05 S9: [Uh-huh.
- 06 T9: **[Do you think when you go back you'll kind of be like... you'll be surprised because of the lack of technological advancement?**
- 07 S9: [Yeah.
- 08 S9: That could be... um... hmm... Yeah, none of my friends back home have cell phones so I don't know what the progress is there.
- 09 S9: But, um... yeah maybe, if there's no way to tell unless I go back, which I'm going back in a month... so...

話題展開を促す：見解の要求

01 S9: Isn't that interesting, usually don't the men usually hope for a son?

02 T9: That's...that's [what I heard, so yeah.

03 S9: [But...

04 S9: [Hmm

05 T9: [So I thought he would definitely have a little more fun with a boy than he would with girl.

日本人／アメリカ人の先生・学生の質問

	日本人	アメリカ人
回数	先生が学生の約2.3倍 (先生:75、学生:33)	先生が学生の約1.4倍 (先生:41、学生:30)
話題提供を促す質問	<ul style="list-style-type: none">・先生による話題の提案・学生は話題提供の促しに消極的	先生・学生による、“How about you?”等→自由な話題選択
話題展開を促す質問	<ul style="list-style-type: none">・先生による話の補完、話の拡張・学生は話題展開を大きく左右する質問を回避する	先生・学生による、詳細の引き出し、発話意図の明確化、見解の要求
まとめ	<ul style="list-style-type: none">・先生と学生の非対等な質問・先生が学生を話しやすい話題の選択、話題の展開へと導き、学生はそれに従う	<ul style="list-style-type: none">・先生と学生の対等な質問・話題の選択、展開は、互いに、相手の自由、独立性を尊重するやり方で行う

日本人とアメリカ人の「先生」と「学生」の関係

日本人

- 非対等な関係
- 「面倒見のよい」上位者が下位者を保護し、下位者が上位者に保護されるという、タテの社会構造、人々の行動様式に組み込まれた上下関係に基づく役割関係 (Nakane 1970; Lebra 1976)

アメリカ人

- 対等な関係
- 「互いの自立性を重視し、相手に自由に決めさせるのが思いやりである」というアメリカ人のコミュニケーションの理想像 (Lebra 1976)

- 日本人英語学習者は、グローバル人材としての英語コミュニケーション力を養うために、何を知っておくべきか、どのような訓練が必要か？

英語教育において必要なこと

- 自身のコミュニケーション・スタイルへの自覚と、他者のコミュニケーション・スタイルについての知識
 - 「聞く」「読む」活動の中に、「質問」「意見」など積極的な発話を用意する訓練
- ↓
- 相手や状況に応じたコミュニケーション・スタイルのスイッチを可能とする素地を養う
 - 異なる文化的背景をもつ人々と対等に話しあえる素地を養う

佐藤真海さん

「英語を学びたいというよりは、伝えたい、海外に友達を作りたいという方が強かった。海外の友人からは、使え使えと励まされ、使った。」

「学校での英語は一生懸命やった。単語も文法も詰め込んだ。でも、ずっと使えなかったのに、今、ふたが開いて、ぽこっと出てきた感じですよ。」(2013年11月16日付朝日新聞朝刊)



研究室での実験風景



指導教官であるDr. Vacantiと



Photo by First Daffodils. CC BY SA

ハーバード大学

ハーバード留学体験記

小保方 晴子

先進理工学研究科 生命医学専攻
博士課程3年 常田研究室

私は博士課程の1年の夏から2年の冬までの間、アメリカのボストンにあるハーバード大学医学部に留学させていただきました。たった1年と数ヶ月の留学でしたが、人生何年分にもあたる刺激的な出会い

にも、2つのラボのミーティングに毎週参加していました。そこでの発表は聞いて理解するものではなく、自ら考えて意見を述べるもので、眠気を感じる暇などまったくありません。

われたことです。この言葉は、「見本となるような人生を送りなさい」という、すべての若者に向けた言葉だと理解しています。本留学では、日本とアメリカの違いを感じるよりも、

指導教官のDr. Vacantiとオニアで、愛とユーモアあふれる20代前半の女の子が私を含め、4人と呼ばれて（名前は異なる4人でした）毎朝7時から夜中まで勉強したり、将来について語り合ったり、今では大親友になりました。私は英語のスキルが不足していたので、毎朝世界最先端の研究が毎朝小さな世界旅行のようでした。私は自分が所属するラボ以外

ちといっしょに授業を受けました。そこでの学生の質問の活発さにも、その質問に対し、教科書的に答えるのではなく最新の知見や自身の研究データを基に真摯に自分の意見を述べる教授陣の姿にも感動し、気がつけば毎回自分も質問するようになっていました。

も通する普遍的な価値観を胸に秘めています。

2008年早稲田大学より日本学術振興会よりハーバード大学医学部常田研究室と東京女子大学との交流に向けた新

を送りなさい。すべてを手に入れて幸せになりなさい」と言

http://pcw-gcoe-waseda.jp/jpn/phd/voice.html

「実践的科学知NEWS」<<http://www.waseda.jp/prj-GCOE-PracChem/jpn/newsletter/img/GCOENL01.pdf>> (2014年2月28日)

本研究で使用したデータは、平成15～17年度科学研究費補助金基盤研究B1(課題番号15320054)「アジアの文化・インターアクション・言語の相互関係に関する実証的・理論的研究」(代表:井出祥子)において収録された「ミスター・オー・コーパス」の一部である。

本研究は、平成25～27年度科学研究費補助金基盤研究C(課題番号125370733)「日本語話者と英語話者の質問行為の対照研究」(代表:植野貴志子)の成果の一部を含む。

参考文献

会田雄次(1972). 日本人の意識構造 講談社.

Ehrlich, S. & A. F. Freed. (2010). The function of questions in institutional discourse: An introduction. In A. F. Freed and S. Ehrlich (Eds.), *Why do you ask?* pp. 3-19. New York: Oxford University Press.

Freed, A. F. (1994). The form and function of questions in informal dyadic conversation. *Journal of Pragmatics*, 21, 621-644.

Goody, E. N. (1978). Towards a theory of questions. In E. N. goody (ed.), *Questions and Politeness: Strategies in Social Interaction*. 17-55. New York: Cambridge University Press.

上條晴夫(2000). 「質問する技術」を教えたい！教育ジャーナル, 178.

Lebra, T. (1976). *Japanese patterns of behavior*. Honolulu: University of Hawaii Press.

Lyons, J. 1977. *Semantics*, Vols. 1 & 2. Cambridge: Cambridge University Press.

南不二男(1985). 質問文の構造 水谷静夫(編)文法と意味Ⅱ 朝倉書店 pp.39-74.

宮地裕(1979). 新版文論 明治書院.

Nakane, C. (1970). *Japanese society*. Berkeley: University of California Press.

Schiffrin, D. (1993). "Speaking for another" in sociolinguistic interviews: Alignment, identities, and frames. In D. Tannen (Ed.), *Framing in discourse*. pp. 231-261. New York: Oxford University Press.

Sobel, A & J. Panas. (2012). *Power Questions*. Wiley.

Tannen, D. (1984). *Conversational style: Analyzing talk among friends*. New York: Oxford University Press.

植野貴志子(2013). 問いかけ発話の社会指標性—上下関係における役割の指標—
ことばと人間, 9, 1—12.

山口堯二(1990). 日本語疑問表現通史 明治書院.